

生涯学習係

10月27日(水)、川場村文化会館において、「地域と学校のパートナーシップ推進フォーラム」が行われました。沼田市立沼田東小学校(「学校支援地域本部事業」の指定2年目)の学校支援センターの取組について、学社連携推進担当教諭の小曾根理佳子先生と地域コーディネーターの大竹秀子さんに発表していただきました。

事例1 気軽に頼める学習支援



左の写真は、4年生の国語科の授業で、学校支援ボランティアの方が点字指導をしているところです。専門的な知識や技能をもったボランティアの方々による支援は、児童にインパクトを与え、学習を深めることができます。

また、右の写真は、ボランティアの方々が引率補助として遠足に同行しているところです。引率補助がいることで、教師は個々の児童に目を配ることができます。



また、特に配慮しなければならない児童に対し、ゆとりをもって支援することができるようになります。その他、国語科の書写指導や家庭科のミシン指導、調理実習などでも学習支援が行われています。

ボランティアを依頼する際には、児童の学習をより深めるために、「どのような場面で何を支援してほしいか」という学校の要望を伝えることが大切です。そのためには、ボランティアの方々との連絡・調整や事前打合せが重要となりますが、地域と学校をよく知る地域コーディネーターがいることで、学校の負担が少なくなります。

事例2 環境・安全への支援

右の写真は、ボランティアの方々が、校庭の遊具のペンキ塗りをしているところです。また、校庭の植木の剪定や花壇の花植え、種取りなども協力してもらっています。ボランティアの中には、日頃、校庭をグラウンドゴルフの練習で借りているお礼の気持ちを込めて協力してくださっている方もいます。このように地域の方々の協力で、子どもたちの学習環境が整えられています。



この他、児童の登下校時の見守りにも協力していただいています。また、PTAによる校内の防犯見回りも並行して実施しており、地域と家庭が協力しながら多くの目で子どもを見守ってくれています。

事例3 体験活動への支援



本校では、地域コーディネーターの企画による「夏休みわくわく体験活動」も行っています。左は、元婦人会の方の指導による「うどん作り」、右は、地域の自動車工場の方の指導による「車の構造を知ろう」の活動場面です。



この他、およそ10の体験活動が地域や地元企業の方々の協力により実施され、体験不足が叫ばれる子どもたちにとって意義ある活動となっています。

また、随時発行している広報紙『学ボラだより』を保護者に配布したり、地域に回覧したりして、地域と学校が連携して取り組んでいる各種活動の紹介やボランティアの募集などを行っています。

地域と学校が連携協力する活動は、それぞれの地域や学校によって特色があります。沼田東小学校の事例をもとに、「地域と学校が連携協力した活動を『もう一歩』進めるためにはどうしたらよいか」を、ぜひ考えていただけたらと思います。